

H27年度の学校評価

本年度の重点目標			
社会に貢献する工業人財の育成 ～知力・体力・技術			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒指導 (生徒指導部) (各学年)	自らを律する心を育む指導の充実を図る。	自ら身だしなみを整えさせる。 挨拶・丁寧な言葉遣いを徹底させる。 遅刻回数に応じて段階的に指導する。 交通安全教室等を通して交通事故を防止する。 スマートフォン等の預かり指導等を徹底する。	全教職員で声かけをし、機を逃さず毅然とした態度で指導する。 遅刻指数0.3未満を目指す。 自転車無事故200日間を目指す。
学習指導 (教務部) (各教科)	倫理観を養い、計画的な学習ができるように力量を高める。	定期考査時に「教務だより」を作成して、自分の目標や考査範囲などを記入できるプリントを準備する。 自主的な計画が立てられるような工夫を凝らす。	担任の協力のもと、考査前に学習計画、考査後に目標到達度など「教務だより」で確認し、その状況を把握して、個人へのアドバイスをおこなう。 プリントの提出が100%になるよう目指す。
進路指導 (進路指導部)	将来の職業に対する希望や目標を持ち、職業能力や進路選択力を高められるようキャリアガイダンスを充実させる。	基礎力診断テストの実施 SPI問題集に取り組む 職業適性検査の実施 面接指導の実施 インターンシップの奨励と実施 本校卒業生の講演実施	各種テスト、検査の結果を適切にフィードバックするとともに、インターンシップ等を通して生徒の職業観・勤労観の育成に取り組む。 教員間の共通理解ができるよう資料の充実を図り、早い段階での就職内定率100%を目指す。
P T A活動・式典 (総務部)	保護者への広報活動を充実させるとともに、防災意識の向上にも努める。	P T Aと連携をして、防災意識の向上を図る。 ①東海地震が発生した場合の帰宅方法を家庭で確認させる。 ②帰宅経路時の危険箇所について考えさせる。	東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓をあらいだし、身近に潜む危険を参考資料として作成する。 帰宅経路について各自が夏休みに考え、家庭においても話し合う機会を設け資料を作成する。
生徒会・部活動 広報 (生徒会部)	部活動による社会性の育成を図るとともに、保護者への情報提供を充実させる。	部活動のルールやマナーの徹底から社会的な礼儀作法、教養を身につけさせ、実践できるようにする。 学校HPやメール配信を積極的に活用することにより、保護者への情報提供を充実させる。	ミーティングを適宜開催し、生徒間、生徒と教職員間相互理解を深め、信頼ある人間関係を築く。 全ての生徒が元気よく挨拶ができる学校にする。 顧問や担任等と連携を図り情報収集を行い、HP等を積極的に活用し発信する。 月ごとの活動計画や結果を100%発信する。
保健活動 清掃美化活動 (保健部)	清掃時間を確保し、全校で一斉清掃を実施する。	帰S T 15:20-15:35、清掃15:35-15:45とし、10分間集中して全校で一斉清掃を実施する。	清掃監督が不在時にも、自主的に清掃に取り組む態度を育成する。 外庭清掃は、雨天時に工業科の清掃区域を割り当てる。 ゴミの分別を徹底する。
資格取得 (工務部)	自ら進んで資格取得に取り組む生徒の育成と指導体制の確立を図る。	資格取得に関する情報をわかりやすく提示し、生徒の資格取得への意欲を高揚する。 検定試験に関連する教科と指導の連携を図る。 情報技術基礎における「プログラミング基礎」の指導を強化する。	1年生の検定(計算技術3級、情報技術3級、リスニング英語検定3級)については、90%の合格率を目指す。 プログラミング言語Cの教材は、J I S規格に準拠しかつ実際に動作することを確認したものとする。

機械科	専門知識と技術・技能を身に付けたスペシャリストを目指す。	判りやすい授業に心掛け基礎学力の向上を図る。 座学、実習ともに基礎を徹底的に学ばせ、高い技術や技能を積み上げる土台を構築する。 専門技術の伸長に向け、授業後に補習を実施しレベルアップを図る。	担任と協力し、再考査受験者ゼロを目指す。技能士試験や競技大会で上位者を輩出する。進路実現を100%目指す。
電子機械科	向上心を持ち、何事にも真摯に取り組む人間育成を目指す。	課題の取組を継続的に行い、基礎学力の向上を目指すと共に、学習習慣の定着を図る。 資格取得のための環境整備を行い、社会で活躍できる技能を身に付けさせる。	社会人として必要とされる知識と技能が身に付けられるような課題と資格取得の選定を行い、生徒の自主性を伸ばし、進路実現100%につなげる。
電気科	日々の授業を大切に、基礎基本をしっかり身につけ、社会に求められる工業技術者を育成する。	座学・実習の始まり、終わりのけじめをつけさせる。 資格取得への対応を充実させる。	社会のニーズに対応した人材育成及び、生徒一人一人の進路実現のための生徒指導を心がける。
情報システム科	自ら考え、自らの手でものづくりができる技術者の育成を目指す。	各種競技大会やコンクールに参加することで生徒自身に目標を持たせ、その目標に向けて取り組むことの充実感を体験させる。	参加は一部の生徒となるが、その生徒たちが周りに与える影響を考慮して指導する。また、達成感を得るように指導する。
1年生	規律ある高校生活の確立を達成する	担任を中心に生活・体調管理を保護者との連絡を密にし充実させ、遅刻・欠席・早退をさせない。 元気の良い挨拶、返事、話を聞く姿勢等、生活態度の指導に重点を置き、徹底させる。 何事にも「準備」を早くさせる。	目標を明示し（教室掲示等）、日頃から意識をさせ自発的に取り組ませる。 怠慢による遅刻・欠席に関しては生徒指導部と連携をとり厳しく指導する。 練習を繰り返してできるようになるまで徹底し指導する。
2年生	自ら考え自ら行動することを意識付けさせる。	授業と放課の区別をしっかりとつけさせ、規則正しい生活を身につけさせる。 進路を意識して状況にあった行動や身だしなみを徹底させ、環境整備に配慮させる。	常に来年に控えた進路選択を意識させ、今何が必要か、今何をすべきかを生徒自身で考え行動できるように支援する。 日々の声かけを充実させてより深い生徒理解に努める。
3年生	社会で活躍できる人財に必要な姿勢を身につける。	人前でしっかり話をするのと爽やかに元気の挨拶ができるようにする。 教室の環境美化に積極的に取り組む姿勢や、提出物の期限を守るなどの社会人としての素養を身につけさせる。	就職・進学試験を見据えて計画的かつ日常的に指導にする。 「重点目標」だけでなく「今の目標」を設定し、きめ細やかな指導をする。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・体罰・いじめ・不登校のない安全・安心な学校づくりについて ・工業高校生ロボット大会の成果について ・魅力ある学校づくりに向けた学校外への働きかけ（ボランティア活動等）や情報発信（広報等）について 	

H26年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	社会に貢献する工業人財の育成 ～心技体をみがく～		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導部) (各学年)	<ul style="list-style-type: none"> 常に身だしなみを整える習慣の定着 礼儀正しい態度・言葉遣いの育成 規律ある態度の定着 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面で全教職員が毅然とした態度で指導する。 声かけをし、機を逃さず指導する。 遅刻指導等段階的な指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを自ら整えることや時間を守ることなどできている。生徒には、身だしなみ等の大切さを理解させるとともに、全教職員が今以上に自信をもって積極的に指導していく必要がある。
学習指導 (教務部) (各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間を確保する。 基礎学力の向上を目指し、家庭学習の充実を図り、学ぶ姿勢を構築する。 授業では、分かりやすい授業、考える授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などの実施の際、時間帯などを考慮し授業の時間確保を図る。 学科・教科の課題等を定期的に出して家庭学習をさせる。 授業の工夫や観点別評価の取り組みを推進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を見直し、授業時間確保できるか検討する。 図書館の活用を促し、利用率をあげる。また、クラス文庫など設置し、本に触れる時間を増やす。 成績不振生徒への個人面談や学習指導を行う。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の更なる向上 S P I の理解と必要性 挨拶去るや身だしなみ波を含めたコミュニケーション能力の向上 本校にあった講演者の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの実施 S P I 問題集の実施 職業適性検査の実施 年6回の面接指導の実施 1年生インターンシップの実施 工業高校卒業生の講演実施 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、10月下旬に就職率100%を達成し、愛知県トップの内定率を維持した。学校全体が一丸となって努力した結果である。 グループディスカッションの充実や鉄道関係への対応など、生徒の適正にあった取組が必要であり、教職員の一層の協力と団結が不可欠である。
P T A 活動・式典 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会と連携して創立70周年事業を成功させる。 安心、安全な環境を整える。 地域の方々から愛される学校として交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会と連携を図るために実行委員会を開催し、70周年記念式典に向け詳細な計画を立てる。 非常時に対応できる環境作りを推進する。 70周年の取組みとして小・中学校及び地域の方々と交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会と連携し創立70周年記念式典を行うことが出来た。 防災訓練では、出身中学別の集合方法の確認を行ったが、本人の帰宅方法についての確認をさせる必要がある。
生徒会・部活動 広報 (生徒会部)	<ul style="list-style-type: none"> 部活動を通して心身共に成長させ、社会性を養う。 部活動の活性化により、学校の勢いに拍車をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動のルールやマナーの徹底から社会的な礼儀作法、教養を身に付けさせる。 1つの目標に向かって、全員が一丸となって取り組むことの大切さを理解させ、部活動のみならず学校行事等への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの部活動が県大会に出場を果たし、日常の活動も活性化してきている。また、学校行事の成功にも繋がっている。 学校行事、試合結果だけでなく、日頃の部活動の活動時間や長期休業中の活動日など、幅広く保護者への情報提供をしていく必要がある。
保健活動 清掃美化活動 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃の充実・徹底 健康意識の定着 相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃時間を確保し、全員清掃の実施 缶、ペットボトルの分別の徹底 基本的な生活習慣の確立 疾病予防についての知識の定着 組織として対応できるような相談体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃時間を確保するために終礼の時間を10分、清掃15分と設定したが、終礼の時間が延びるクラスが多く、15:30から一斉に清掃することが十分でなかった。「清掃→終礼」の方がよいと思われる。 その他については、おおむね良好であった。
資格取得 (工務部)	<ul style="list-style-type: none"> 資格・検定取得を高校生活の到達目標のひとつと位置づけ、積極的に支援し奨励するとともに、生徒が自ら進んで資格取得に取り組める指導体制の確率を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格・検定に関する情報を詳細に提示し、生徒の資格・検定取得への意欲を高揚する。 関連教科との指導の連携を図る。 情報技術基礎におけるプログラミング言語Cの指導を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> リスニング英語検定の合格率が増加した。問題の難易度が低下したことが主な原因である。 情報技術検定3級は、70.8%の合格率であった。インフルエンザで21名が受検できず、1年生の86名が合格できなかった。

機械科	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の向上と実習室の環境誠意日に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の5Sを徹底し、危険感受性を高め、主体的な学習活動ができるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> つつがなく実習を終えられてよかった。 実習室の整理・整頓が大幅に出来たが、材料置き場と職員室横の更衣室が片づかないので整頓を徹底したい。
電子機械科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を身につけさせるとともに、工業人としての資質を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子機械科課題を継続的实施し、生徒の学習意欲を高める。 資格・検定等の指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> F科課題を継続して実施することができた。生徒にも定着しつつあり、学力向上につながっている。職員への負担が集中しない方策を考えていきたい。
電気科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が向上できるように、日々の授業を大切にする。 電気工事士免許取得に向けた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境を整え、課題や補習を行う。 資格取得のためのきめ細やかな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にし、基礎学力向上が図れた。 資格取得も多くの生徒が受験をし、好結果を残せた。
情報システム科	<ul style="list-style-type: none"> 日々の座学・実習を大切にする。 資格取得の指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> めりはりのある授業を展開する。 社会に対応できるようにする。 資格取得へ補習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本に徹して学力の定着ができた。 科で協力をしながら資格取得の指導ができつつあるので今後も充実させたい。
1年生	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活態度の育成 正しい判断力の構築 他を尊重する心の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席の理由を確認し的確に指導する。 授業を第一に考え、放課との区別をつけさせる。(5分前行動、授業の準備、授業中の姿勢) 発する言葉、態度・姿勢等把握し、良好な関係を築けるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定(計算技術、リスニング英語、情報技術)に向けて、学年での取組(演習プリント配布、朝学、補習)が効果的に展開され、合格につながった生徒も多かった。 朝読や成績不振者の指導にも学年の取組がされ、担任としては非常に助けられた。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> 進路を見据えた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業を利用してSPIの学習をさせる。また、企業・学校に関する情報を調べさせる。 集会時において、集合の時間・服装・整列の指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題集(SPI)やプリントを作成し(企業・学校調べ)取り組ませることができた。 担任や室長の指示が無くても設定時間通りに集合・整列をすることができた(集会時の集合・服装・整列)。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の希望進路実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を行い、SPIや各教科の問題集を活用し、基礎学力向上を目指す。 進路講演会の実施や個人面談を通して、個々に合った進路情報の提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝・帰りのSTは生徒主体で実施した。人前で自分の考えを話す場面を設定することで、話し方、言葉遣い、意思の疎通について学ぶことができた。 進路指導部と連携を図り、就職内定率100%を県内で最も早く達成することができた。
総合評価	<p>保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートの「私は(子どもを)豊川工業高校に入学して良かったか?」の質問項目に対して、例年に比べ「かなりそう思う」「そう思う」の回答が多くなっている。これは、県内で最も早い就職内定100%の達成や、県内で常に上位の就職試験一次内定率(93.3%)の実績、さらに挨拶や身だしなみの躰教育の徹底、部活動の活性化や資格取得に対して、教職員が意欲的に取り組んでいる評価であると考えられる。</p> <p>また、本年度は創立70周年の節目の年に当たり、これを機に今まで以上に同窓会、保護者、教職員の結束が強固となった。今後も3者が協力する中で、魅力ある教育活動の展開により、さらなる学校の発展と共に地域から愛される学校を目指していきたい。</p>		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体罰・いじめ・不登校のない安全・安心な学校づくりについて ・70周年事業に向けた生徒・教職員の取組み成果について ・魅力ある学校づくりに向けた学校外への情報発信（広報・ボランティア等）について ・生徒第一（プレーヤーズファースト）を念頭とした教育相談の充実について
<p>自己評価結果について</p>	<p>「学校いじめ防止基本方針」を定め、昨年度までの「体罰・いじめ防止対策委員会」に「不登校」を加え、「体罰・いじめ・不登校防止対策委員会」と名称変更をし、より一層、様々な観点から生徒を支援するために、校内・外組織の体制の整備を図った。生徒を対象としたアンケートは、相談係を中心に計画的に進めた。担任との個人面談の結果を教育相談委員会で情報交換し、対応等について共通理解を図った。特に重大な事案として検討を要する内容はなかった。</p> <p>創立70周年記念式典に向け、実行委員会を中心に取り組んだ。11月13日の記念式典には多くの企業の皆様、中学・高校等の校長先生方、PTA・旧職員の方々にご臨席をいただき盛大に開催できた。同窓会、PTA、学校の連携が一層強いものとなった。</p> <p>「魅力ある学校」、「地域から愛される学校」に向け、学校新聞の配付やボランティア部等の活動により、学校外への情報発信ができた。特に文化祭では、過去最高の1300名の方が学校を訪れ盛況であった。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>○今の世の中での指導で「先生の萎縮」が心配である。先生を先生だと思っていない生徒などには「攻め」の姿勢で指導をしてほしい。○ブランド豊川工業高校において何故定員割れしたのか原因の調査が必要である。○保護者の先生に対する悪口や陰口は教育環境に好ましくないためなくさなくてはいけない。○地域の方々いろいろな面で学ぶ必要がある。○生徒と先生の連携がとても大切なので、今後もうまく対応を図ってほしい。○生徒の表情が明るく、我々の学生の頃とはかなり工業高校のイメージが変わった。○文化祭の一般公開のような行事を中学生の「オープンスクール」にするとよいのではないかと検討してほしい。○モノをつくって作品を発表するといったスタイルの文化祭は工業高校らしくてよかった。○各分掌の評価結果については、客観的な達成目標（数字）を示し、それに対してどうであったかを検証した方がよい。</p>
<p>その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）</p>	<p>○挨拶がきちんとできており、躰に対して手が行き届いている。○交通安全立哨活動やボランティア部の様々な活動は地域の活性化にも効果があり、地域からの評価も高い。○陸上部が新体制としてスタートしたが、県大会では2位、東海大会では7位とよく健闘してくれた。○就職内定100%達成が県内で最も早く、一時内定率も93.3%と県内上位といった結果は素晴らしい。日頃からの進路指導の成果の賜である。○70周年記念式典は同窓会、PTA、学校と連携が図れ成功でき良かった。○学期毎の生徒対象のアンケートでは、悩んでいる生徒が多くなっているようだが、学校に生徒が悩みを言えるよい雰囲気があるのではないだろうか。より良い雰囲気の学校を目指して頑張してほしい。○金属加工は企業ではとても大切なので今後もしっかりと指導をしてほしい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員（5名）、保護者（3名）、地元有識者（3名）学校関係者（5名） ・評価時期・・・6月下旬、11月中旬、2月中旬